

バタフライ・エフェクト 2

2007(平成19)年11月23日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★



監督＝ジョン・R・レオネッティ／出演＝エリック・ライヴリー／エリカ・デュランス／ダスティン・ミリガン／ジーナ・ホールデン／デヴィッド・ルイス（アートポート、AMG エンタテインメント配給／2006年アメリカ映画／92分）

……バタフライ効果、カオス理論を、「もしもあの時……？」という人間ドラマに適用した映画がシリーズ化……？ 前作は日記がその小道具だったが、パート2では写真がそれに……。話があっちこっちへ飛び、主人公が現在・過去・未来を駆け巡るから、何かと脈絡のない展開になるのは仕方ないが、あなたはそんなストーリーの中にどんな面白みを……？

二匹目のどじょうは……？

「バタフライ・エフェクト」＝「蝶々効果」とは、「ある場所で蝶が羽ばたくと、地球の反対側で竜巻が起こる」という、はじめの条件のわずかな違いが、将来の結果に大きな差を生み出すという「カオス理論」だが、これを真正面に据えた問題作が『バタフライ・エフェクト』（03年）で、結構面白い映画だった（『シネマルーム8』146頁参照）。そこで製作陣は二匹目のどじょうを狙って『バタフライ・エフェクト2』を作ったが、監督は前作のエリック・プレス、J・マッキー・グラバーのコンビからジョン・R・レオネッティに変更。つまり製作陣が監督を選んだわけだが、その出来は第1作と比べてさて……？ 前作は「日記」によって過去に戻ったり未来に進んだりしたのに対し、『バタフライ・エフェクト2』は「写真」がその決め手となる。もともと、第1作が「何とも不思議な映画」だったのと同様、第2作も……？

交通事故のシーンが見モノ……

私は今年「転ばぬ先の事故対策と交通事故示談のかしこいやり方」と題する講演会を4回やったが、そのうち3回は塩屋俊監督の『0（ゼロ）からの風』（07年）の予

告編を上映して飲酒運転の撲滅をアピールした。これはこれで大いに効用があると思うが、『バタフライ・エフェクト2』を観て思ったのは、この映画のストーリーの出発点となる交通事故の悲惨さをビデオで見せるのも効果的ではないかということ。9月9日に観たクエンティン・タランティーノ監督の『デス・ブルーフ in グラインドハウス』(07年)もすごかった。また、前作を監督したエリック・プレスとJ・マッキー・グラバーのコンビは、『デッドコースター』(03年)の原案・脚本を書いたコンビだが、この『デッドコースター』の交通事故のシーンもすごかった(『シネマルーム3』232頁参照)。『バタフライ・エフェクト2』のラストの字幕にはスタントマンの表示がされていたが、4人の男女が乗るジープの横っ腹に大型トレーラーが激突するシーンはリアルで迫力があるから、スタントマンもかなり怖かったはず。さて、そんな事故が起こった原因は……？

もし〇〇だったら……？

あの交通事故で生き残ったのは、運転していたニック・ラーソン(エリック・ライヴリー)だけ。恋人のジュリー(エリカ・デュランス)も後部座席に乗っていた親友のトレバー(ダスティン・ミリガン)とその恋人アマンダ(ジーナ・ホールデン)も一挙に失ってしまったニックがそう簡単に立ち直れないのは当然。しかも、ニック自身も時々激しい頭痛に悩まされていた。

ある時、ジュリーの誕生日を祝うためにあの時あの4人で行った湖で撮った記念写真を眺めていると、ニックは突然激しい頭痛と発作に襲われたが、気がつくとはニックは1年前のあの車の運転席に……。車の中での楽しい4人の会話は同じ、そしてタイヤが急にパンクしたのも同じ。するとその後は……？ そう考えたニックが咄嗟にハンドルを切り、トレーラーの激突を辛くも避けたのは当然だった。ホントにこんな「もし……」があればいいのだが……？

同じことが2度、3度と……？

写真を凝視することによって「もし〇〇だったら……」を体験したニックだから、その後2度、3度と「もし△△だったら……」「もし××だったら……」と考えたのは当然。そして、なぜかそれがいかにも不思議な形で実現するのだが、もちろんニックがそれをすべて自分でコントロールできるわけではない。したがって、過去や未来

がどんな風が変わって出てくるのかは「出たところ勝負」……？

ニックの最大の関心事はジュリーとの恋の行方だが、同時に仕事面におけるプリストル（デヴィッド・ルイス）との出世競争も気がかり。また、ニックは優秀な営業マンだが、トレバーは仕事の能力はイマイチなのでいろいろとニックのフォローが必要。そんな中、混乱を極めながらのニックの行きつ戻りつの「RESET 人生」は……？

■ サービスシーンが2度も……

前作は、4人の仲間の1人を演じた女優エイミー・スマートがベッドで見せる幸せな姿や売春婦として過ごす妖艶な姿まで、タツプリとサービス精神(?)を發揮してくれた(『シネマルーム8』148頁参照)。しかして『バタフライ・エフェクト2』では、ニックとジュリーが演ずる激しいベッドシーンが登場するうえ、副社長になったニックはある美女と慌ただしいファックシーンも。

『バタフライ・エフェクト』が今後もシリーズ化されることになれば、現在、過去、未来と主人公の人生を変幻自在に変化させていくことが最大のポイントだが、美人女優による激しいセックスシーンの見せ場だけはキープしてもらいたいもの……。

■ ラストをどう思う……？

この手の不思議な映画は最初からヒネってつくってあるから、ラストの結末のつけ方が難しい。あれほど愛し合っていたはずのニックとジュリーだったが、ニックがあの時代やこの時代に戻ったり、行ったりしている間に、ニックとジュリーの関係はいつしか変なことに。そこで、こりゃまずいと思ったニックは何とかヨリを戻そうと努力したが、なかなかうまくいかなかったよう……？

さらに最後には、あの思い出の湖のシーンでニックからジュリーに対して何とも意外な別れの言葉が……。それにショックを受けたジュリーは「私、妊娠しているの」と打ち明けたまま1人車に乗って立ち去ろうとしたが、そこから起こる不思議な結末は……？

こんな映画はどんなストーリー構成にしようとする自由だが、『バタフライ・エフェクト2』のラストの結末のつけ方に私は不満あり。さて、あなたは思う……？

2007(平成19)年11月24日記